

科目名	ミクロ経済学		
授業形態	講義	学年	2
開講時期	2023年度 後期	単位数	2
担当教員	木谷 耕平		
内容および計画	<p>ミクロ経済学基礎で学んだ知識を踏まえ、この授業ではより発展的な内容を学ぶ。はじめに、市場における競争の程度（競争相手がどのくらいいるのか）によって、生産者（企業）の行動がどう異なるのかを考察する。その中では、経済学だけでなく、政治学や政策科学など他分野でも広く用いられているゲーム理論についても紹介する。次に、消費者の意思決定と行動について詳しく考察する。また、労働など生産に必要な要素の市場についても考察する。最後に、経済学のなかでも比較的新しい、情報の経済学や行動経済学といった分野を紹介する。</p> <p>ミクロ経済学基礎と同じく、この授業でも講義に加え問題演習を行うことで理解を深める。なお、履修において四則演算より高度な数学の知識は必要ない（必要な場合、適宜授業内で解説する）。</p> <p>この授業を通して、現実の社会で起こる様々な問題の背景をミクロ経済学の考え方をもとに理解し、その対応策を考えられるようになることを目指す。</p> <p>キーワード：競争、独占、ゲーム理論、消費者</p>		
1	イントロダクション：ミクロ経済学の基礎知識の確認 ミクロ経済学基礎で学んだ内容を復習する。		
2	企業行動と産業組織（1）独占 競争市場の結果は効率的であるが、生産者が一人しかいない独占の場合、市場の結果はどのようになるのだろうか。この回では、独占が生じる理由や独占企業の意思決定、市場の効率性について分析し、競争市場との違いを明らかにする。		
3	企業行動と産業組織（2）独占的競争 現実の経済においては、完全な競争も完全な独占も稀である。実際の市場の多くは、その両方の要素を含んでいる。例えば、ラーメン店は多数存在し競争市場のように見える。一方で、各ラーメン店には個性があり、ある程度自由に価格をつけることができる。この回では、ラーメン店のように、個別の商品において差別化されてはいるが、類似の商品をつくる多くの競争相手がいる市場について分析する。		
4	企業行動と産業組織（3）寡占とゲーム理論 売り手が少数しかいない市場のことを寡占という。寡占市場では、ある売り手の行動は、他の売り手の利潤に大きな影響を与える。この回では、こうした相互依存関係がある場合の企業の行動について、ゲーム理論を用いて分析する。		
5	ゲーム理論：様々なゲーム ゲーム理論は寡占市場だけではなく、様々な場面で活用されている。この回では、ゲーム理論を軍拡競争や選挙の分析に応用する。また、逐次手番のゲームや繰り返しゲームについて学ぶ。		
6	消費者選択の理論（1）消費者の選好 消費者は、限られた予算の中で自分の満足度が最大になるように消費を決定するはずである。そうした意思決定をミクロ経済学ではどのようにモデルで表現するのかを学ぶ。		
7	消費者選択の理論（2）消費者の最適選択 予算制約線と無差別曲線を使って、消費者がどのように最適な消費を行うのかを学ぶ。また、価格が上昇したときに需要量が増加すること（ギッフェン財）がなぜ生じるのかを説明する。		
8	消費理論の応用（1）労働供給と貯蓄 消費者選択の理論を使って、労働時間や貯蓄に関する意思決定を学ぶ。また、賃金に変化したときの労働供給への影響や利率が変化したときの消費への影響を分析する。		
9	消費理論の応用（2）不確実性 くじやギャンブルのように、結果が確実ではない場合の人々の意思決定について学ぶ。特に期待効用仮説について詳しく説明する。		
10	労働市場の経済学（1）生産要素の市場 ここまでは生産された財やサービスの市場を分析してきた。しかし、生産には労働・資本・土地といった要素が必要であり、それらもまた市場で取引される。この回では、生産要素市場を分析するための基本的な理論について学ぶ。		
11	労働市場の経済学（2）勤労所得と差別 私たちの社会では、職業によって所得に大きな差がある。例えば医師と警察官はどちらも社会にとって重要な職業であるが、賃金は大きく異なる。この回では、前回の授業で学んだ生産要素市場の理論を使って、		

	なぜこうした賃金格差が存在するのかを分析する。
12	労働市場の経済学（3）所得不平等と貧困 世の中にはどのくらい所得の不平等があるのだろうか。また、不平等を改善するために政府はどのような役割を果たすべきなのだろうか。この回では、不平等の測り方や不平等に対する政府の役割、貧困を減らすための政策について学ぶ。
13	マイクロ経済学のフロンティア（1）情報の非対称性 中古車市場では、売り手はその車の品質をよく知っているが買い手にはよくわからない。この回では、このように情報の非対称性がある場合の意思決定と市場の結果について学ぶ。
14	マイクロ経済学のフロンティア（2）政治経済学 市場の失敗の場合などには、政府は公共政策によって市場の結果を改善することができる。では、政府はどのように公共政策を決定するのだろうか。この回では、経済学的手法を用いて、政府がどう機能するのかを分析する。
15	マイクロ経済学のフロンティア（3）行動経済学 人々は必ずしも合理的な行動をとるわけではない。心理学の知見を取り入れ、人々の非合理的な行動や考え方のクセを研究するのが行動経済学である。この回では、行動経済学の基礎的な理論を学ぶ。

教科書				
タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第4版）』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	9784492315194	2019

参考書	井堀利宏 『入門マイクロ経済学 第3版』 新世社
-----	--------------------------

成績評価	
評価方法	割合(%)
期末試験	70
小テスト	30

- ・小テストは数回実施する。詳細は最初の授業で説明する。
- ・期末試験及び小テストは持ち込み不可。

学習到達目標	以下の3点をこの授業の到達目標とする。 ①マイクロ経済学のより進んだ理論を理解し、説明できる。 ②マイクロ経済学の考え方を応用し、現実社会の問題を分析できる。 ③新聞記事やニュースの内容を理解し、批評することができる。
先修条件	マイクロ経済学基礎を履修済みであること。
実務経験	
その他	私語など、授業と関係のない行為は慎むこと。